

僕と家族の読書習慣

赤磐市立磐梨中学校一年

高橋 たかはし奏佑 あきひろ

僕の家は二週間に一度、必ず図書館に行く。ほとんどの人が「読書は苦手」、「字が多すぎ」というが、僕の家族はみんな読書が好きで、本を通して貴重なコミュニケーションの習慣になっている。僕が本を好きになった理由は、子どもころに母がたくさん読み聞かせをしてくれて、母自身も本が好きで本とふれあう機会が多かったからだ。さらに、子どもころ、僕は母に対して保育園の先生の真似をして絵本の読み聞かせをしていったという。その時に、母にほめてもらうととてもうれしかったから好きになっただのだと思う。

小学校の時に、小学校の図書室でクラス別の本をクラスでとれただけ借りて読んでいるのか、というイベントがあった。その時に、図書室に通う頻度かとも増え、友達と一緒にたくさん本のほか、読んでいた。そのう

ち、自然と本を読むことが習慣になつていた。今では、本の紙を一枚一枚めくる感覚がとて  
も気持ちよくて好きで読まづげている。幼い頃は、母が図書館から僕の本を借りて  
きていたのを読んでいた。だが、成長するにつれて母が僕専用の図書館カードをつくってく  
れた。その時は天にもほるやうにうれしか  
ったし、自分で借りていいんだと興  
ふん  
していった。その様子を母が見て、良か  
た  
ね、図書館の本をどれでも全  
て借りて読んで  
い  
い  
よ  
い  
っ  
か  
全  
部  
の  
本  
を  
読  
み  
き  
れ  
る  
と  
い  
い  
ね。  
と  
言  
っ  
て  
笑  
っ  
て  
い  
た。  
こ  
の  
時  
か  
ら、  
自  
分  
が  
借  
り  
た  
本  
は  
す  
べ  
て  
ノ  
ト  
に  
記  
録  
し  
て  
い  
る。  
今  
ハ  
ノ  
ト  
は  
三  
冊  
で  
現  
在  
は  
三  
千  
冊  
の  
本  
を  
読  
み  
つ  
く  
し  
て  
い  
る。  
父  
や  
母  
の  
読  
む  
本  
と  
僕  
の  
読  
む  
本  
は、  
ジ  
ャ  
ン  
ル  
が  
同  
じ  
こ  
と  
も  
あ  
れ  
ば、  
違  
う  
こ  
と  
も  
あ  
る  
の  
で、  
お  
た  
が  
い  
に  
オ  
ス  
ス  
メ  
を  
言  
い  
合  
っ  
た  
り、  
感  
想  
を  
伝  
え  
た  
り  
し  
て  
い  
る。  
僕  
は  
そ  
の  
時  
間  
が  
と  
て  
も  
好  
き  
だ。  
そ  
れ  
が、  
家  
族  
の  
習  
慣  
と  
な  
り、  
二  
週  
間  
に

一度、必ず図書館にいくようになった。母は  
 よくこう言っていて、本を読むと、自分の  
 知ろなか、たことが知れるし、行ってない所  
 にも、本の中なうとこへでもいけるし、経験  
 して、いないことも何でも経験したように感じ  
 られるから楽しい。

僕の家族にとって図書館は、家族との会  
 話か広がる場だ。

こんなエピソードもある。幼い時に、僕が  
 本をソファの上でひっくり返して開いたまま  
 にしておいたことがあった。それを見ていた父  
 に、「自分の本でも借りた本でも本を大切に  
 しなさい。しわをつけたり、本を踏んだりし  
 てはいけません。知識がつまいている本は、大  
 切に扱いなさい。と注意された。それから  
 は、より一層本を大切に扱うようになった。

僕の家族は、本を読む時間や、図書館に行  
 く時間をとても大切にしている。そして、僕  
 の家族にとって図書館は、コミュニケーション  
 ンに欠せない、心がほっと安らぐ場所である。

中学生になって、部活動や、難しい問題の勉強で忙しくなったり、ゆくりと本を読める時間や、家族全員そろって図書館に行く機会は、昔よりも少なくなってきた。しかし、家族全員として、かきとミニケイシヨンがとれる、この二週間に一度、みんなが図書館に行くという家族の貴重な習慣を、これからも続けていきたい。それが僕の忙しい毎日の中で、心安らく息抜きの時間でもあるからだ。